

年度	2026
講義名称	鳥取学
講義コード	D2633301
講義区分	
配当学年	1
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
授業方法	対面授業
代表ナンバリングコード	
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限

担当教員

氏名	所属
◎ 吉永 郁生	環境学部
重田 祥範	環境学部
笠木 哲也	環境学部
徳田 悠希	環境学部
山口 創	環境学部
太田 太郎	環境学部
谷口 晴香	環境学部

DP(12の力)との関係Ⅰ

知識①	知識②	知識③	問題解決力④	問題解決力⑤	問題解決力⑥
○	-	-	-	-	○

DP(12の力)との関係Ⅱ

コミュニケーション力⑦	コミュニケーション力⑧	コミュニケーション力⑨	豊かな人間性⑩	豊かな人間性⑪	豊かな人間性⑫
-	-	-	○	○	○

SDG s（目標17）との関係

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

授業形態	講義
------	----

授業の目的と概要	・本学では、「人と社会と自然との共生」を考察する知的・技術的基盤を、カリキュラム全体を通じて身に着けることを基本理念としている。その実践的な知識や経験を鳥取地域を題材として学習することになる。鳥取地域の社会は、本来、この地域の気象や地質・地理などの要素に加え、山や森林、河川、里、そして隣接する日本海などの特有の自然環境と、そこに見られる動植物などを基盤として成立している。また、その自然環境基盤を礎として、原始古代から現代までの歴史や建造物を背景としつつ、特有の民俗や信仰、習わしなどが定着し、現在のこの地域特有の社会や文化、産業などに受け継がれている。本授業では、鳥取地域が他地域とは異なる特徴的な事項を中心に解説し、今後本学で学ぶすべての履修生が鳥取地域において実践的な知識・経験を得るため基礎的な知識を得ることを目的としている。前半に鳥取の気象や地質・地形、海洋環境や動植物などの自然基盤について解説し、後半に鳥取の歴史・文化に関して学ぶ。学ぶ内容が多岐にわたるため、外部講師を含む複数の教員によって講義を行う。 ・本講義は、学内外の複数の教員によるオムニバス形式で行う。 ・定期試験は行わず、成績は各回の課題（講義中あるいは講義後に出題される）に対する評価の積算で評価する。
到達目標	・鳥取の自然環境の基本的な特徴について説明できる。 ・鳥取の代表的な自然資源（一次産品や観光資源など）について説明できる。 ・鳥取の歴史の概略について説明できる。 ・鳥取の特徴的・代表的な文化について説明できる。
履修条件	・特に必要ないが、鳥取県外出身者は鳥取県と比較して理解するために、自分の生まれ育った地域の自然環境や歴史・文化について知っておくことが望ましい。

他学部履修	○：特に制限なし。事前確認不要。
-------	------------------

教科書	・オムニバスの講義のため、各回の担当教員からの資料配布がある可能性がある。 ・各回の担当教員から、参考となる図書の提示がある可能性がある。
参考書	・各回の担当教員から、参考となる図書の提示がある可能性がある。
キーワード	鳥取県、自然環境、歴史・文化、一次産品
実務経験	・鳥取県内の博物館、美術館、史跡公園などに所属する外部講師が一部（主に歴史・文化）を担当する。

授業計画表

授業計画表

第1回	題名	内容
	ガイダンス（授業の進め方および評価方法の説明）、鳥取学を学ぶ意味（担当 吉永）	・地域的な課題（自然環境の側面及び社会的側面）に向き合うための学習とは何か。 ・なぜ、鳥取学を学ぶのか ・鳥取の海洋環境と県中部の海女文化との関連（鳥取学を応用した具体的な事例）
	授業時間外学修 ・鳥取県外出身学生は、出身県（地域、国）に関する知識・経験（個人的なものでも良い）を整理したうえで、鳥取県と比較する。 ・鳥取県内出身学生は、県外出身学生との対話から得た鳥取県のユニークさを整理する。	授業時間外学修時間 2時間
第2回	題名	内容
	鳥取県の気象（担当 重田）	本講義では、鳥取県を対象として、日本海側気候の特徴と地域特有の気象現象について解説する。冬季の北西季節風による降雪、夏季の高温・多湿やフェーン現象など、年間を通じた気候特性を整理するとともに、中国山地や日本海といった地形条件が気象に及ぼす影響を理解する。さらに、降雪・豪雨・高温などの気象現象が人間生活や自然災害とどのように関わっているかを具体例を通して考察し、地域気象を学ぶ意義について理解を深める。
	授業時間外学修 鳥取県の過去の気象災害事例を1つ調べ、簡単にまとめる。	授業時間外学修時間 2時間
第3回	題名	内容
	鳥取県の地形・地質（担当 徳田）	鳥取県に分布する代表的な地形および地質の特徴について解説する。日本海沿岸に発達する海岸地形（砂丘、海食崖など）や、中国山地の形成過程を取り上げ、鳥取県の地形や地質の発達過程を理解する。
	授業時間外学修 鳥取県周辺の地形図および地質図を用いて、代表的な地形や地質を確認する。鳥取砂丘、中国山地、主要河川などを地図上で整理し、地形・地質の特徴を簡潔な文章でまとめる。	授業時間外学修時間 3時間
第4回	題名	内容
	鳥取県の動物（担当 谷口）	鳥取県に分布する動物相の特徴について解説する。あわせて、人間との関わりが深い普通種（ニホンジカやイノシシなど）や、『レッドデータブックとっとり』に掲載されている鳥取県の絶滅のおそれのある野生動物についても一部紹介する。
	授業時間外学修 大学周辺を散策し、その際に目撃した野生動物（野鳥など）について種を同定し、その生態を図鑑などで調べてみる。	授業時間外学修時間 3時間
第5回	題名	内容
	鳥取県の植物（担当 笠木）	鳥取県の植物相および植生の特徴について、気候や地形条件との関係から解説する。また、鳥取県の特徴的な植物として絶滅危惧種などを取り上げ、その分布要因や保全上の意義について理解する。
	授業時間外学修 鳥取県に分布する植物について、自身の興味・関心のある植物または植生を1つ選び、その特徴や分布背景について調べ、整理する	授業時間外学修時間 3時間

第6回	題名	内容
	鳥取県の海と水産業（担当 太田）	自然資源である鳥取県の海について、その物理的特性および生物的特性を理解するとともに、これらの資源を利用した産業である水産業の現状と課題について理解する。
	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	鳥取県の水産資源生物について、自身の興味・関心のある分野（例えばその生態、さらには利用実態（例：加工品や料理方法など）についてさらに深く調べ、整理する。	4時間
第7回	題名	内容
	鳥取県の農畜産物（担当 山口創）	鳥取県で生産される農作物、畜産物の特徴や、それらの産地として発展してきた理由を自然環境や社会条件との関係性を踏まえながら解説する。また、鳥取県の農業、畜産業が抱える課題や発展方向を理解する。
	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	関心のある鳥取県の農畜産物をいくつか取り上げ、生産状況、歴史、食文化との関わりを調べ文章としてまとめる。	3時間
第8回	題名	内容
	青谷上寺地遺跡と妻木晩田遺跡から見た鳥取県の黎明（担当 小口課長補佐、青谷かみじち史跡公園）	青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の調査研究をもとに、鳥取県の弥生時代の環境や暮らし、交流等について講義する。
	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	青谷かみじち史跡公園及びむさばんだ史跡公園のガイダンス施設の展示や屋外展示の見学、または、以下の参考文献を基に鳥取県の弥生時代の特色について調べる。 参考文献：湯村功著2025『弥生の交易とものづくり-青谷上寺地遺跡-』（新泉社）、鳥取県埋蔵文化財センター編2007『鳥取県の考古学第2巻 弥生時代Ⅰ 稲作とくらし』、鳥取県埋蔵文化財センター2007『鳥取県の考古学第3巻 弥生時代Ⅱ 戦いと交流・墓とまつり』を読み込んでおくこと。	5時間
第9回	題名	内容
	奈良時代～平安時代の因幡・伯耆（担当 石井学芸員、鳥取市歴史博物館）	①中央政権と因幡・伯耆の国司（六国史、小右記、中右記、時範記などの史料から読み解く） ②大伴家持・山上憶良と万葉集 ③大山寺（大山寺縁起） ④因幡堂（因幡堂縁起）
	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	講義のテーマとして挙げたものについて、参考となる文献や史資料を探して調べる。できれば、上記史料の原文を読む。 鳥取市歴史博物館常設展示室に展示してある因幡の古代の概要を観覧し、古代における因幡と伯耆の国としての違いについて考える。	5時間
第10回	題名	内容
	鳥取の美術（担当 赤井学芸員 鳥取県立美術館）	鳥取県の美術の歴史は、豊かな自然と民俗を背景にした「民藝（みんげい）」の精神が基礎となっている。江戸時代から現代における美術を中心に鳥取ならではの特色ある郷土美術について学ぶ。
	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	鳥取県立博物館等（講義において紹介する）、鳥取の郷土美術が展示してある施設を1箇所以上めぐること。また、鳥取の郷土美術ならではの点について考察する。	5時間
第11回	題名	内容
	江戸時代の鳥取城下町 くらしと環境（担当 伊藤学芸員、鳥取市歴史博物館／鳥取城跡・仁風画展示館）	江戸時代の鳥取城下町の成り立ちから、当時のライフラインについて解説する。また城下町の生活環境や江戸時代の慣習から当時の社会システムを理解して現代社会との連続性や相違点について考える。
	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	古い地図や文献、博物館の常設展示や発信されているアプリを参考に、鳥取城下町を実際に歩いて、江戸時代の痕跡をたどりつつ、当時の人々の生活環境をイメージしながら追体験してみる。	5時間
第12回	題名	内容
	近代の鳥取（鳥取県の誕生）（担当 横山学芸員、鳥取市歴史博物館）	廃藩置県により明治4年に誕生した鳥取県は、明治9年に島根県と合併され廃県となったが、その後、鳥取県再置運動の結果、明治14年9月12日に鳥取県は再置となり、今の鳥取県が誕生した。再置された9月12日は「とっとり県民の日」となっている。この授業では、鳥取県の誕生・廃県・再置について講義する。
	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	鳥取県立公文書館・鳥取県立博物館・鳥取市歴史博物館等の常設展示を観覧する。また、図書館等で関係書籍を読む。	5時間

第13回	題名	内容
	鳥取県内の歴史的建造物と町並み（担当 松本係長、鳥取県文化財課）	歴史的な建物や町並みは、その地域の風土や歴史によって生み出されたものであり、地域固有のものである。本講義では、歴史的建造物や町並みを通して、鳥取県の地域性について学ぶ。
第14回	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	鳥取県の東部、中部、西部、あるいは県外の歴史的な民家を比較し、その違いや共通点について考察する。写真やインターネット上の情報だけでなく、現地を訪れること。 鳥取県内の文化財建造物については、とっとり文化財ナビを参照のこと。 https://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm	5時間
	題名	内容
	中世の因幡・伯耆（担当 山本学芸員、鳥取県立博物館）	鳥取（因幡・伯耆）の鎌倉～安土桃山時代ごろの政治・文化・経済などに関わる様々なトピックスを、根拠となる歴史資料にも目配りをしながら紹介する。因幡・伯耆国がどのような歴史を経て、どのように現代の鳥取県に繋がっていかを考えた。
	授業時間外学修	授業時間外学修時間
	鳥取県立博物館・鳥取市歴史博物館の常設展示を見学すると、授業で取り扱った事項の予習・復習となり、より理解が深まる。 【参考文献】 鳥取県史のブックレットシリーズ ・岡村 吉彦『織田vs毛利 一鳥取をめぐる攻防一』（2007年） ・同『尼子氏と戦国時代の鳥取』（2011年） ・錦織勤『古代中世の因伯の交通』（2013年）	5時間

成績評価

評価方法	課題						
評価割合(%)	100						

成績評価に関する補足	・各回の授業ごとに出席、フィードバック、課題が課せられる。出席はしたがフィードバックと課題の提出がない場合は1点、フィードバックと課題の内容により最高7点を評点する。全授業回（14回）の総計98点を100点満点に換算する。
------------	---

ループリック

評価項目	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている	到達目標を十分に達成し、優秀な成果を収めている	到達目標を十分に達成している	到達目標を最低限達成している	到達目標を達成していない
鳥取の自然環境	鳥取の自然環境の基本的な特徴と他地域との差異について他の評価項目と関連付けて説明できる。	鳥取の自然環境の基本的な特徴と他地域との差異について説明できる。	鳥取の自然環境の基本的な特徴について十分に説明できる。	鳥取の自然環境の基本的な特徴について、おおよそ説明できる。	鳥取の自然環境の基本的な特徴について説明できない。
鳥取の代表的な自然資源	鳥取の代表的な自然資源（一次産品や観光資源など）と他地域との差異について他の評価項目と関連付けて説明できる。	鳥取の代表的な自然資源（一次産品や観光資源など）と他地域との差異について説明できる。	鳥取の代表的な自然資源（一次産品や観光資源など）について十分に説明できる。	鳥取の代表的な自然資源（一次産品や観光資源など）についておおよそ説明できる。	鳥取の代表的な自然資源（一次産品や観光資源など）について説明できない。
鳥取の歴史	鳥取の歴史の概略について他地域の歴史的背景および他の評価項目と関連付けて説明できる。	鳥取の歴史の概略について、他地域の歴史的背景を理解したうえで説明できる。	鳥取の歴史の概略について十分に説明できる。	鳥取の歴史の概略についておおよそ説明できる。	鳥取の歴史の概略について説明できない。
鳥取の文化	鳥取の特徴的・代表的な文化について、他地域との文化交流など、および他の評価項目と関連付けて説明できる。	鳥取の特徴的・代表的な文化について他地域の文化と比較して説明できる。	鳥取の特徴的・代表的な文化について十分に説明できる。	鳥取の特徴的・代表的な文化についておおよそ説明できる。	鳥取の特徴的・代表的な文化について説明できない。